



沖縄県立南部医療センター・
こども医療センター

専攻医募集

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center

こどもからおとなまで

「大切な命を守り、県民に貢献する」病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センターは、全国でも数少ない、こども病院を併設した、大人と子どものための総合医療センターとして全く新しい機能や役割を持った基幹病院として開院しました。

診療の特徴として、胎児期から成人までを対象とし、あらゆる疾患に対応する事が可能な高度で多機能な病院です。



Contents

基本方針	4
院長挨拶	5
専門研修プログラムを持つ診療科	6
連携・関連 専門医プログラムを持つ診療科	7

【診療科・部門紹介】

小児科	8
内科	10
総合診療科	12
地域医療科（サブスペシャリティ）	14
救急科	16
外科	18
形成外科	20
専門研修プログラム診療科・認定医療機関	22
指定医療機関・学会認定施設	
当院の概要	23



病床数は444床(小児病床124床)で、 急性期病院として位置付けられています。

●基本方針

1. 県民と協働し、共感・共存できる公的医療を実践します。
2. 県民生活を守る救急医療を365日24時間提供します。
3. 病んでいるこども達の可能性を最大限に生かせるよう努力します。
4. 教育・研修病院として良き医療人を育成します。
5. 病状や治療方針について、平易な言葉で十分に説明し、納得がいく同意を得るよう努力します。
6. 病院ボランティアの受け入れを進んで行います。
7. 県民が誇れる、県民の病院として地域交流から国際交流まで進めていきます。
8. 沖縄県の基幹病院として職場環境に配慮し、健全経営に努めます。



診療の特徴として、こどもから大人までを継続して 医療サービスを受ける事ができます。

●南部医療圏における救命救急医療

県都那覇市を含む南部医療圏(人口約74万人)はもちろん、沖縄県(一部鹿児島県)の離島からの症例についても救命救急センターで24時間365日、初期から3次のすべての救急患者(小児から高齢者まで・特殊疾患も含めて)に対応し治療に当たります。

●小児の専門診療(こども病院機能)

沖縄県全域と近接する県外の小児を対象とした、小児医療の最終病院として3次医療機能を有します。総合周産期母子医療センター、母体・胎児集中治療室(MFICU6床)、新生児集中治療室(42床)、および小児集中治療室(8床)を有し、先天性心疾患、血液疾患、腎疾患、神経疾患、小児外科・小児形成外科・小児整形外科疾患など、専門医療を行う完結型のこども病院として、全県から紹介、搬送される重症児の管理を行います。また在宅医療や小児の成育・支援を含めた小児の総合診療を提供します。

●高度多機能病院

成人部門には、多岐にわたる専門性の高い疾患が集まります。そのゲートキーパーとしての総合診療機能を救命救急科と総合内科が担っています。また当院は、急性冠症候群、脳血管障害、多発外傷など内因系、外因系疾患に対応する集中治療室(ICU15床)を有し、高度医療を行います。また地域支援病院として、紹介、逆紹介を通じ、急性期・慢性期の病診連携を行います。

●精神身体合併症医療

総合病院の中に、県内では最初の合併症専用の精神科病棟(5床)を持ち、身体合併症のある精神疾患を内科、外科や他科と連携し治療を行います。

●離島、へき地医療支援

当院は8カ所の附属診療所のへき地医療拠点病院として、医療支援を行い、離島の人々の健康をサポートします。



幅広い職種に多くの職員が勤務する当院では、職員の子育てと仕事の両立を支援するため、院内保育所「みなみのこ保育園」を併設しております。(病児保育もあり)

院長挨拶



沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
院長 重盛 康司

沖縄県立南部医療センター・こども医療センターは、こども病院と総合病院の機能を併せ持つ、全国でも数少ない高度多機能病院です。胎児期から成人まで幅広い疾患に対応できる体制を整え、特に県内唯一のこども医療センターとして、沖縄県全域の小児医療の最後の砦という役割を担っています。また、総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠婦や新生児に対する高度な医療も提供しています。

成人部門の診療も充実しており、主要な内科および外科の専門医部門が揃っています。さらに、地域の救急医療拠点として、初期から三次まで全ての救急患者（小児から高齢者まで）に対応し、重症患者も積極的に受け入れています。一方で、8か所の附属離島診療所を通じて離島医療支援も行っています。

このように多様な症例を手厚い指導体制のもとで経験することで皆さんが成長できるよう病院全体でポスパートしますので、沖縄県内外から多くの研修医のご応募を心よりお待ちしております。



専門研修プログラムを持つ診療科

診療科	プログラム名	連携病院名
内科	沖縄県立南部医療センター内科専門研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県立宮古病院・沖縄県立八重山病院 ・沖縄県立北部病院・沖縄県立中部病院 ・琉球大学病院
総合 診療科	沖縄県立南部医療センター こども医療センター総合診療後期研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県立中部病院・沖縄県立宮古病院 ・沖縄県立八重山病院 ・沖縄県立病院附属離島診療所（16カ所）
救急科	沖縄県立南部医療センター こども医療センター 救急科専門研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・浦添総合病院・琉球大学病院 ・沖縄県立中部病院・沖縄赤十字病院 ・沖縄協同病院・中頭病院・ハートライフ病院 ・沖縄県立北部病院・沖縄県立宮古病院 ・沖縄県立八重山病院・高知医療センター ・米盛病院・順天堂大学医学部附属浦安病院
小児科	沖縄県立南部医療センター こども医療センター小児科専門研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県立中部病院 ・沖縄県立八重山病院・沖縄協同病院 ・千葉市立海浜病院・静岡県立こども病院 ・沖縄県立北部病院（関連施設） ・沖縄県立宮古病院（関連施設） ・沖縄中部療育医療センター（関連施設） ・中部徳洲会病院（関連施設） ・国立成育医療研究センター（関連施設）
形成外科	沖縄県立病院群 美ら島形成外科研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県立中部病院・沖縄県立北部病院 ・沖縄県立宮古病院・沖縄県立八重山病院 ・鳥取大学医学部附属病院・九州大学病院 ・医療法人こころ満足会 形成外科KC ・名古屋大学医学部附属病院・琉球大学病院 ・九州がんセンター
外科	沖縄県立病院外科専門研修プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県立中部病院・沖縄県立北部病院 ・沖縄県立宮古病院・沖縄県立八重山病院 ・聖マリア病院・聖マリアンナ医科大学病院



連携・関連 専門医プログラムを持つ診療科

診療科	プログラム名		基幹病院名
内科	琉球大学病院内科専門研修プログラム		琉球大学病院
	沖縄県立中部病院内科プログラム		沖縄県立中部病院
	国立国際医療研究センター病院内科専門研修プログラム		国立国際医療研究センター
	ハートライフ病院内科専門研修プログラム		ハートライフ病院
総合診療科	島医者養成プログラム		沖縄県立中部病院
	総合診療専門研修プログラム「うぶらうさぎ」		沖縄県立宮古病院
	沖縄県立八重山病院 総合診療専門研修プログラム「南ぬ島」(ぱいぬしま)		沖縄県立八重山病院
救急科	福岡大学病院 救急科専門 Professional 育成研修プログラム		福岡大学病院
	琉球大学病院救急科専門研修プログラム		琉球大学病院
	沖縄県立中部病院救急科専門研修プログラム		沖縄県立中部病院
	浦添総合病院救急科専門研修プログラム		浦添総合病院
	高知医療センター救急科専門研修プログラム		高知医療センター
	横浜市立市民病院救急科領域専門研修プログラム		横浜市立市民病院
	米盛病院救急科専門研修プログラム		米盛病院
	順天堂大学浦安病院総合救急医育成プログラム		順天堂大学医学部附属浦安病院
	東京医科大学八王子医療センター救急科専門研修プログラム		東京医科大学八王子医療センター
小児科	連携施設	沖縄県立中部病院小児科専門研修プログラム	沖縄県立中部病院
		千葉市立海浜病院小児科専門研修プログラム	千葉市立海浜病院
	関連施設	国立成育医療研究センター小児科専門研修プログラム	国立成育医療研究センター
外科	神戸大学外科専門研修プログラム		神戸大学医学部附属病院
	中頭病院外科専門研修プログラム		中頭病院
	中部徳洲会病院外科専門研修プログラム		沖縄中部徳洲会病院
	沖縄県立中部病院外科専門研修プログラム		沖縄県立中部病院
	沖縄協同病院外科専門研修プログラム		沖縄協同病院
	聖マリア病院群外科専門研修プログラム		聖マリア病院
聖マリアンナ医科大学 (SMU) 外科専門研修プログラム			聖マリアンナ医科大学病院
形成外科	九州大学形成外科研修プログラム		九州大学病院
	鳥取大学形成外科専門研修プログラム		鳥取大学医学部附属病院
	名古屋大学形成外科専門研修プログラム		名古屋大学医学部附属病院
産婦人科	琉球大学産婦人科研修プログラム		琉球大学病院
	沖縄県立中部病院産婦人科専門研修プログラム		沖縄県立中部病院
	友愛医療センター産婦人科専門研修プログラム		友愛医療センター
耳鼻咽喉科	ちゅらしま沖縄耳鼻咽喉科研修プログラム		琉球大学病院
皮膚科	琉球大学医学部皮膚科研修プログラム		琉球大学病院
※皮膚外科を目指すコースを選択した場合に限り 1 年間研修する。			
眼科	琉球大学眼科専門研修プログラム		琉球大学病院
整形外科	琉球大学整形外科専門研修プログラム		琉球大学病院
脳神経外科	連携施設	脳神経外科専門研修九州大学医学研究院 脳神経外科プログラム	九州大学大学院医学研究院脳神経外科
		脳神経外科専門研修 琉球大学医学部プログラム	琉球大学病院
	関連施設	脳神経外科専門研修順天堂大学医学部プログラム	順天堂大学医学部附属順天堂医院
		脳神経外科専門研修岐阜大学医学部プログラム	岐阜大学医学部附属病院
精神科	沖縄県立病院群 精神科専門医研修プログラム 「うりずん」		沖縄県立精和病院
	国立病院機構 琉球病院 精神科専門研修プログラム		琉球病院
麻酔科	琉球大学麻酔科専門研修プログラム		琉球大学病院
放射線科	おきなわ放射線科専門研修プログラム		琉球大学病院
病理診断科	沖縄病理専門研修プログラム		琉球大学病院



小児科

[Pediatrics]



自然豊かな沖縄で小児科医を目指してみませんか

野村 芽生

Mei Nomura

私が初期研修医のときに当院を見学した際、「離島・僻地で小児科医として独り立ちする」という具体的な到達目標に向かって、懸命に努力する専攻医の先輩たちと全力で指導してくださる上級医の先生方の姿が印象的でした。当院は、沖縄県唯一のこども病院として「Common Disease」から「希少疾患」まで県内各地より多くの症例が集まります。小児総合診療科、NICU、PICUと専科を満遍なくローテートする研修で、頻度の高い疾患から専門性の高い疾患まで経験することができます。また救急外来での急性期対応から、重症心身障害児の慢性期在宅医療まで将来小児科医として遭遇するであろう、様々な時間軸の医療現場を経験できます。EBMに基づいたカンファレンス、専攻医に焦点を当てた勉強会、離島・僻地での診療を見越した手技習得のチャンス多さ、どれをとっても小児科医としての土台作りに最適な環境だと実感しています。研修は大変なこともありますですが、共に研鑽を積む小児科専攻医の仲間たちと一緒に前に進んでいることが何よりも心強いです。南国沖縄らしくとも明るく活気のある病院です。ぜひ一度見学に来てください。

プログラム概要

当院の研修目標のうち、最も大きなものとして「離島で小児科医として独り立ちできる」があります。

その目標を達成するために、研修3年間のうち最初の2年間は当院で各系統疾患の初期診断、マネージメントについて学んでいただき、3年目に離島、あるいは沖縄本島の北部などで実際に診療していくいただく、というプログラムになっています。

当院には小児の各専門科があるので、専攻医は各科を2-3ヶ月単位でローテートしていただきます。離島で出会う頻度の高い疾患を念

頭に、小児総合診療科と新生児科は1年目と2年目にそれぞれ3ヶ月ローテートするプログラムです。

その他専門性の高い領域として神経・精神、内分泌、腎臓、循環器、集中治療、血液腫瘍、感染症について、各科で学べるよう1-2ヶ月を単位にローテートしていただく予定です。

また、当院で専門医のいないアレルギーなどの疾患については選択制とし、連携病院で学んでいただくプログラムになっています。



連携病院一覧表(※1)

- ・沖縄県立中部病院
- ・沖縄県立八重山病院
- ・沖縄協同病院
- ・千葉市立海浜病院
- ・静岡県立こども病院

関連病院一覧表(※1)

- ・沖縄県立北部病院
- ・沖縄中部療育センター
- ・沖縄県立宮古病院
- ・国立成育医療研究センター
- ・中部徳洲会病院

※関連病院を1ヶ月間選択することは相談可能

こども医療センター部門は全国でも珍しい総合病院併設型の子どもの総合医療施設です。全国的に少子化が進む中で沖縄県は、出生率が全国平均の2.4倍、16歳未満の小児人口は日本一と、出生数が増加している数少ない地域の一つです。

当院は総合周産期母子医療センターや県内唯一のPICUを持ち、ほぼすべての小児内科・外科系疾患の高度専門医療が行える病院となっています。さらに、全県の重症児を受け入れ管理する一方、小児の心身障がい児の在宅ケアの包括的支援や小児の心のケアまでを包括的に行なっています。

当院の小児部門では専攻医も含めて小児科医42名が常勤するほか小児心臓血管外科、小児外科、小児整形外科、小児泌尿器科などの外科部門も充実しています。特に救急室においては全国で9番目の小児救急救命センターを持ち、一次から3次までを受け入れる24時間稼働の救急医療を提供しています。年間(2019年度)救急受診数約37,000人あり、そのうち小児は約21,000人を占めます。

当院の研修医は救急室で多くの小児救急患者の初療を自ら第一線で担当します。上気道炎や気管支喘息、熱性けいれんなどのcommonな疾患に対するスタンダードなアプローチ、家族への対応などを学べる一方、また稀な疾患に対する治療や、虐待、在宅医療を要する子どもの急変などにも関わります。

当こども医療センターは先天性心疾患、小児神経、小児血液腫瘍、小児腎疾患、小児内分泌、小児感染症など専門的な治療をする疾患も各専科がいるので、自分で救急室で診療した子どもがその後専科でどのようにフォローしていくかを連続的に学ぶことまで可能です。

当院は新専門医制度に対応した小児科専門研修プログラムの基幹病院であり、2年間基幹病院で研修後3年目は離島で独り立ちして診療できる力を持つことを目指します。学会発表や論文指導もしっかり行っています。小児科専門医をめざす方ばかりではなく、当院は家庭医をめざす方、離島診療をめざす方、救急医のなかで小児科診察に力をつけたい方などのニーズにも十分対応できると自負しています。

明るい光、青く高い空、美しい珊瑚礁の島沖縄と一緒に小児医療を学びましょう！

Message

プログラム責任者
大城 達男



小児科／カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
専門研修1年目	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター																		
	総合診療(2ヶ月)	感染症(1ヶ月)	血液(2ヶ月)		内分泌(1ヶ月)	腎臓・神経(1ヶ月)	NICU(3ヶ月)			総合(2ヶ月)									
専門研修2年目	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター		※1		沖縄県立南部医療センター・こども医療センター														
	NICU(3ヶ月)		外来研修	院外研修	循環器(2ヶ月)		総合(2ヶ月)		腎臓・神経(1ヶ月)	PICU(2ヶ月)									
専門研修3年目	沖縄県立宮古病院・沖縄県立北部病院・沖縄県立八重山病院より選択																		
	地域総合小児医療(1年間)																		

内科

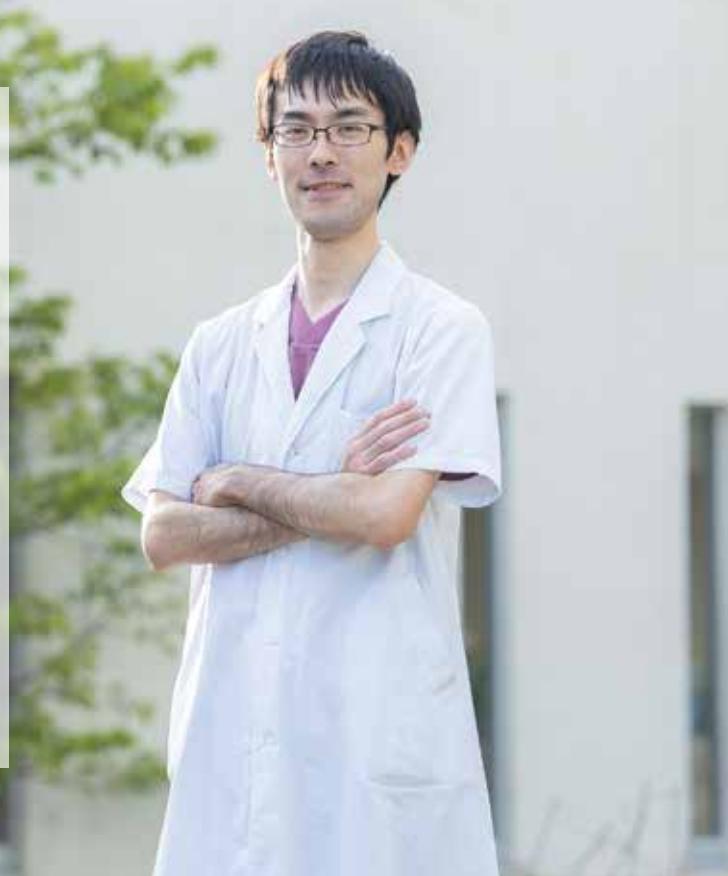
[Internal medicine]

目標へ近づく確信をもって! 充実した日々を実感

石澤 熙

Hikaru Ishizawa

こんにちは、内科専攻専攻医2年目の石澤熙と申します。私は沖縄県出身ではないですが、沖縄の離島診療に憧れて、初期研修の時から当院で研修を行っております。初期研修終了後の進路として、総合診療科と内科のプログラムのどちらを選択するか迷っていましたが、当院での内科研修は専攻医3年目に離島中核病院等に赴任するため、ある特定の内科分野に偏って研修を行うのではなく、全身を診ることができます。内科医を育成できるようにプログラムが作成されています。一般的な内科管理ができる医師として、離島診療所で勤務できるようになりたいと思い、当院での内科研修を選択しました。分野問わずに軽症から重症まで様々な症例を経験でき、J-OSLARの症例で困ることもありません。正直、当院での研修はかなりハードですが、確実に力がついていくことを実感しております。是非見学にきてください。



プログラム概要

当院は平成18年4月に開院した沖縄県の基幹病院で、こども病院機能を併設した総合病院です。那覇南部地区約70万人の地域に立地し、救命救急センターを持ちながらも、1次から3次まで幅広く救急疾患に対応し、さらに小児救命救急センター、総合周産期母子医療センターと共に、沖縄県全域の小児、周産期医療を支えています。また、県立附属の16診療所中、8診療所は当院の附属診療所であり、離島中核病院（宮古、八重山、北部）と同様に診療連携と支援を行っています。さらに、身体合併症のある精神科患者を受け入れる精神病棟も備え、歯科口腔外科では専門性の高い歯科治療を行うなど多機能病院で、各科垣根なくコンサルトできる体制であり、幅広い知識を身につけ、全人的医療が可能になります。

さて、内科専攻医には、上記の機能を有する当院での研修は有意義であると考えます。研修期間の3年間で内科専門医を獲得することを

目指します。具体的に言えば、A案の場合、前半1年間は、呼吸、循環、消化器、神経、血液、総合内科、腎臓を2ヶ月ごとにローテーション、さらに週1回は沖縄県立中部病院の感染症専門医であるコンサルタントより指導を受けることもできます。

当院内科は特色ある専門医療を提供できるよう各専門内科が設けられていますが、中でも内科疾患への対応は、包括的な観点をもって対応する必要があり、特に総合内科は、多種の症候と疾病に対し、より広い観点で病態を見渡せる診療科として、内科領域のプライマリケアの中心的役割を担っております。

実際には、右記の3案の中から、スタッフと相談してローテーションを決めます。連携病院は、離島中核病院である宮古病院、八重山病院、そして基幹病院である琉球大学病院（短期研修）です。



内科系診療科

総合内科
循環器科
呼吸器科
消化器科
神経内科（脳卒中センター）
賢リウマチ科
血液腫瘍内科
感染症科



連携病院一覧表(※1)

- ・沖縄県立中部病院
- ・沖縄県立北部病院
- ・沖縄県立宮古病院
- ・沖縄県立八重山病院
- ・琉球大学病院

「離島中核病院等で有用とされ、内科的問題をおおよそ独立で診療できる能力を身につけること」を目標としています。これは、地域でかかりつけ医としての役割、救急診療への対応、病院での総合内科医として、あるいはサブスペシャリストを目指す総合内科的視点をもった医師を意味しています。医師としての若い時代には専門分野のみに偏狭にならず、幅広く種々の課題に向き合い、診療を通して、地域を背景とした課題にも目を向け、解決する姿勢を身に着けて欲しいのです。内科を専門として学ぶことの出発点を沖縄の地域で学ぶことは、その後研究分野に進むとしても、有意義あります。ぜひ、この地で学んで欲しいと願います。

Message

プログラム責任者
林 成峰



内科／カリキュラム

A案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修1年目	腎リウマチ科		循環器内科		呼吸器内科		消化器内科		血液内科		神経内科	
専門研修2年目							※1 連携病院研修					
専門研修3年目					希望subspecialtyをローテンションする							

B案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修1年目		腎リウマチ科		循環器内科		呼吸器内科		消化器内科				
専門研修2年目		血液内科		神経内科				※1 連携病院研修				
専門研修3年目		※1 連携病院研修					希望subspecialtyをローテンションする					

C案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修1年目		腎リウマチ科		循環器内科		呼吸器内科		消化器内科				
専門研修2年目		血液内科		神経内科				希望科研修(※1 連携病院研修含む)				
専門研修3年目				希望科研修(※1 連携病院研修含む)	(3年間で研修終了)							
専門研修4年目					連携施設(中部病院・北部病院・宮古病院・八重山病院のいずれか)							

総合診療科

[General department]

知識を共有し高めあえる環境

宮島 一実

Kazumi Miyajima

私は以前より地域医療に貢献することを志しており、初期研修終了後は救急医の道へ進みました。救急科専門医取得後に、改めて患者さん一人一人に寄り添うことのできるプライマリケアを一から学びたいと考えていた最中、当院のプログラムを知りました。そこで自分の目標にしたいと思える先生と出会ったことで、現在「ジェネラリストのスペシャリスト」を目指し精進しております。

当院の研修の特徴は、2年間で内科、小児科、整形外科、救急科の研修を行い、臓器および年代を横断的に診療できることにあります。ERから入院管理、最終的には一般外来まで繋げることを自分の手で完結させることができることも魅力の一つと考えます。

3年目に離島診療所での研修を行うことを意識しながら過ごす2年間となるため、自然と密度の濃い研修を行うことができます。

ジェネラリストに興味がある方、自然豊かな沖縄に興味がある方、ぜひ一度見学に来てください。



プログラム概要

プライマリ・ケアの研修を通して確かな医療倫理のもと患者中心・家族志向の医療、包括的で継続的な医療、地域のニーズに則した医療および保健・福祉へ協力できる医師の育成が目的です。沖縄県は離島県のため16の県立病院附属離島診療所があり一人医師として勤務されています。基本的にはこれら離島の診療に責任を持って携われる医師を育成するためのプログラムです。これに加え、この研修終了後には「離島医療」のみならず、総合診療専門医として日常遭遇する疾病や傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供し、地域に即した疾病的予防、介護、看取りなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み全人的な「総合診療医」「家庭医」になる事を目指します。

(1) 地域を支える診療所や病院においては、他の領域別専門医、一般的な医師、医療や健康に関わるその他の職種と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の分野の調整役としてもリーダーシップを発揮し、多様な医療サービス(在宅ケア、緩和ケア、高齢者ケア)を包括的に対応していきます。

(2) 総合診療部門においては、臓器別でない病棟診療(高齢者入院患者や心理・社会的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括的ケア、癌・非癌患者の緩和ケアなど)と臓器別ではない外来診療(複数の健康問題を持つ患者への包括的ケア)を提供し、また、内科系救急疾患にも積極的に関わっていきます。

1. 本研修プログラムでは、①総合診療研修I(離島・僻地の診療所での外来・在宅・保健中心)②総合診療専門研修II(病棟診療、内科系救急診療中心)③内科④小児科⑤救急科の5つの必須診療科と整形外科および選択科で3年間の研修を行います。A.患者中心・家族志向の医療を提供する、B.包括的で継続的な医療を提供できるようになります。

2. 総合診療専門研修について

研修の流れ:総合専門研修は、卒後3年目からの専門研修(後期研修)3年間で構成されます。

①後期1年次研修は領域別研修を中心とし、内科(6ヶ月)、小児科(3ヶ月)、整形外科(2ヶ月)、選択科(1ヶ月)を選択します。内科、小児科、整形外科の基本的急性期治療および検査を独立して行うことができ、複雑な問題に対してはすぐにコンサルトできることを目標とする。また、内科や小児科における慢性疾患に関してもフォローできるようにします。

②2年次および3年次研修は総合診療専門コースと救急科研修を行います。以下の(a)(b)コースを2年次もしくは3年次に研修します。

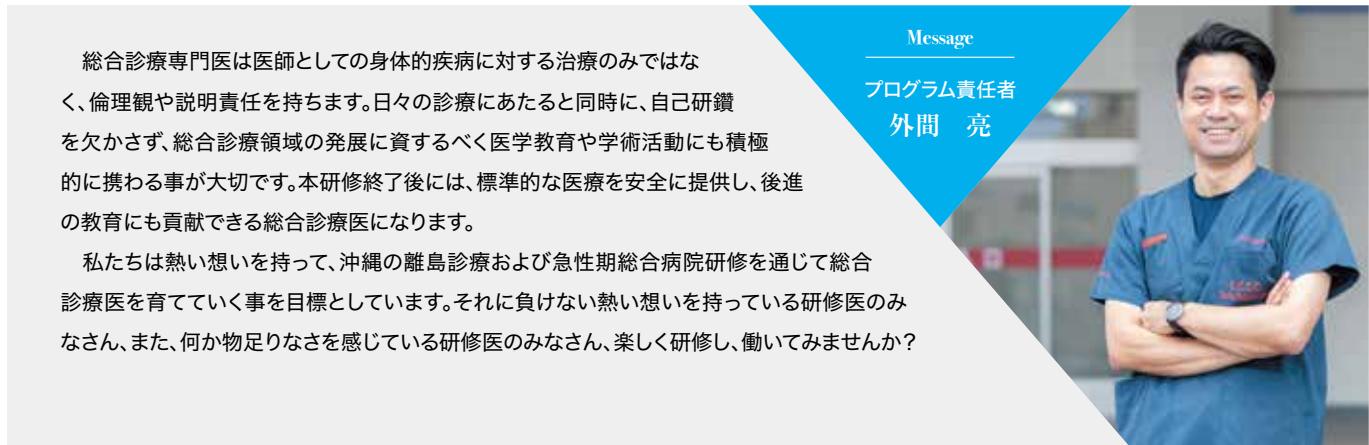
a.離島診療所研修コース:初期研修および後期1年次研修で培った臨床の技能を離島診療所研修(総合診療専門研修I)で発揮する。沖縄県立病院におけるプライマリ・ケアの醍醐味で有り、離島診療所医師として外来診療、一次救急診療、往診、産業医・学校医、地域保健指導への参画、住民の健康問題への関与に積極的に従事します。離島診療所研修コースでは、一人医師として診療所研修を行いますが、週1回のインターネット会議を利用して症例検討や問題点の把握と解決を行います。3ヶ月に1回は離島診療所での直接指導も行います。緊急な問題に関しては、救急センターと直接連絡が取れ、あらゆる相談にも24時間対応可能です。

b.病院研修コース:総合病院の内科系病棟において総合内科グループで臓器別でない症候・疾患・患者の心理社会的問題に対する入院ケアを中心に行い、総合内科の外来と入院治療をこなす総合診療専門研修IIを6ヶ月(その内3ヶ月を内科研修と兼ねる)行い、臓器別の内科研修3ヶ月、残りの3ヶ月をER型救急とICUケアを行うハイブリッド型救急研修を行います。

c.これら研修終了時には、多疾患合併で診断や治療に困難さや患者の心理・社会的問題などの複雑な健康問題に対しても的確なマネジメントを提供し、患者に指導することができる事を目標とします。

離島診療所一覧表(※1)

沖縄県立北部病院附属	沖縄県立中部病院附属	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属
伊平屋診療所、伊是名診療所	津堅診療所	粟国診療所、渡名喜診療所、渡嘉敷診療所、座間味診療所、阿嘉診療所、久高診療所、北大東診療所、南大東診療所
沖縄県立宮古病院附属	沖縄県立八重山病院附属	
多良間診療所	波照間診療所、大原診療所、西部診療所、小浜診療所	



総合診療科／カリキュラム

※2 整形外科と皮膚科関連を中心に研修を行います。

※3 総合内科を中心に研修を行います。



地域医療科【サブスペシャリティ】

[Department of Community Health Care]



プログラム概要

プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

当院は全国でも数少ない、こども病院を併設した大人と子どものための総合医療センターとして2006年4月に基幹病院として開院しました。救命救急センター・小児救命救急センターを擁する地域医療圏の救急医療拠点であり脳卒中センターなど高度多機能病院としての医療機能を擁していますが、8か所の附属離島診療所を抱える、へき地医療拠点病院でもあります。

島嶼県である沖縄県全体に目を向けると16の県立病院附属離島診療所がありすべての診療所は医師1人、看護師1人、事務員1から2人の体制で運営されています。それらの離島診療所に赴任し診療所チームのリーダーとなって、PCCMやBPSモデルを理解し、実践できる医師を育成するプログラムになっています。

プログラムの理念

本研修プログラムは「自分の家族や大切な方の身近な相談相手になれるよう、安全で連続性のある医療を提供する」といった理念を持っているため、沖縄の方言で「家族」を意味する「やーにんじゅ」をプログラム名に付けました。その理念の下、総合病院や診療所といったフィールドを問わず、幅広い職場環境において、臓器別ではない患者それぞれの背景を把握し理解したうえで診療する力を身につけ、実践できることを目標にしています。また、日々の診療だけではなく地域の保健行政や住民と協力しながら予防医学にも携わることで、住民の健康や福祉に貢献する力もつけてもらいます。



当科は院内の総合診療専門研修プログラムと連動して 行われるプログラム家庭医療専門研修プログラム 「やーにんじゅ」です

沖縄(ここ)での経験が、今後の人生に彩りを加える

はじめまして、専攻医として新しい一步を踏み出す医師の皆さんへ。
当院のパンフレットをご覧頂き、誠にありがとうございます。

Message

プログラム責任者
神山 佳之



1. 離島医療の舞台で活躍：当院地域医療科では、沖縄県の離島診療所で活躍できる医師を育成しています。
2. 専門医への道：初期研修で培った経験と知識を活かし、臨床推論やPCCM（患者中心の医療）、BPSモデル（Bio-Psycho-Socialモデル）などの理解と実践を目指します。
3. 多彩なキャリア形成：2年間の領域別研修後、離島診療所で「総合診療医」として活躍できます。また、院内の総合診療専門研修プログラムと連動しているため、総合診療専門医と新・家庭医療専門医の取得も可能です。
4. 経験豊富なスタッフ：当科のスタッフは全員が離島医療の経験を持ち、異なるサブスペシャリティを持っています。将来のキャリア形成に関する相談にも積極的に応じます。

この素晴らしい環境で、新米家庭医として人生に彩りを加えてみませんか？興味をお持ちの方は、ぜひお問い合わせください。

地域医療科／カリキュラム（例）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専門研修1年目	地域医療科2か月	循環器内科2か月	神経内科2か月		小児総合診療科3か月		整形外科2か月		産科1か月			
専門研修2年目	専門内科3か月（選択）		救急・集中治療科3か月		地域医療科3か月 (家庭医療専門研修II)		院外研修3か月 (家庭医療専門研修II)					
専門研修3年目												
専門研修4年目												

全体的な研修目標

本研修プログラムは①家庭医療専門研修I（外来診療・在宅医療中心）、②家庭医療専門研修II（病棟診療、救急診療中心）、③内科、④救急・集中治療科、⑤小児科、⑥産婦人科、⑦整形外科の7つの必須診療科と選択診療科で4年間の研修を行います。様々な臨床の場や各専科医師と交わる中で、

- 1.包括的統合アプローチ
- 2.一般的な健康問題に対応する診療能力
- 3.患者中心の医療・ケア
- 4.連携重視のマネジメント
- 5.地域志向型アプローチ
- 6.公益に資する職業規範
- 7.多様な診療の場に対応する能力

といった、総合診療専門医に欠かすことのできない7つのコアコンピテンシーを効果的に習得できます。

各ローテーション先で学べる内容や特色

家庭医療専門研修IIでは、プログラム責任者が所属する「地域医療科」に籍を置き、そこで内科の一員として定期外来や入院業務、緩和ケア、訪問診療、往診の実践などを学びます。内科（循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎リウマチ科、神経内科、血液内科）研修は専科の一員となり専門的な医療技術や知識、経験を身につけることが可能です。

当院は救命救急センターがあり、救急外来と集中治療室、一般病棟を担当し診療を行っています。救急外来は北米型ERで小児から成人まで年齢や疾患に関係なく、歩いて来院される方から救急車で搬送される方まで幅広い診療を行っています。多忙な救急外来ではトリアージと初期治療、集中治療を学びます。小児科においても当院の小児総合診療科に所属し、一般小児科外来や救急での外来診療を行うことで小児の見方や診察の仕方、急性疾患への対応、児の家族への説明方法など幅広い症例を経験できます。

また当院は総合周産期母子医療センターを有するため、産婦人科での研修では離島やその他地域からのハイリスクの妊娠や生後NICU入室予定の妊娠の受け入れを積極的に行ってています。産科領域では正常分娩から緊急帝王切開術まで24時間体制で対応していることから、産科緊急を含め多くの症例を学ぶことができます。整形外科では院内に成人部門と小児部門があるため、それぞれの疾患について学ぶことが可能です。

幅広い知識と経験を多くの科で積んだ後に、家庭医療専門研修Iである離島診療所で勤務し、急性期から慢性期疾患への対応や予防・学校保健への介入、訪問診療や看取りを含めた在宅ケアなど学んできたことを実践してもらいます。

救急科

[Emergency department]



攻めの救急医をめざして

石坂 恵

Megumi Ishizaka

当院の救命救急センターは、県民の半数以上が居住する南部地域の最後の砦として、24時間365日、年齢疾患を問わず幅広く対応する三次医療機関です。特に小児に関しては、全国的にも数少ない小児救命救急センターに指定されていることもあります。新生児を含め、多岐にわたる症例を経験することができます。

当院では救急専従スタッフが常に勤務しているため、強力なバックアップ体制のもと、専攻医が陣頭に立って初期対応にあたることは他院のプログラムにはないメリットです。外傷症例も多く、集中治療科ローテートでは主担当医として退院まで一貫して診ることができますので、救急医として大きく成長することができると感じています。

勤務時間もon-offがはっきりしており、とても働きやすい環境です。ぜひ一度見学にいらしてください。皆さんと一緒に働くことを楽しみにしております！

プログラム概要

【スタッフ／専攻医】

2024年度 スタッフ10名／専攻医4名(専攻医1年次2名、専攻医2年次2名)

救急科指導医5名、救急医学会専門医10名、集中治療医学会専門医2名、内科学会総合内科専門医2名、プライマリケア連合学会指導医1名（重複あり）

【当科の特徴】

①当院は3次救命救急センターであり、地域の緊急重症症例を多数受け入れています。当科でER・ICU・一般病棟のすべてを網羅しているため、初期診療から集中治療の急性期管理とその後の管理まで、様々な症例を経験できます。

②重症外傷の搬送数は年々増加しています。多くの外傷症例を、初療→IVR→ICU入室といった一連の流れで診療を行い、一般病棟での管

理まで一貫して主担当医として経験することができます。

③チーム制で症例を担当しているため、ON-OFFのはっきりした勤務体系です。

④小児のファーストタッチも救急医が行うことが多く、小児のCommon diseaseやマイナーエマージェンシー、重症も含めて、小児救急症例を豊富に経験できます。

⑤自衛隊ヘリコプターによる離島搬送の添乗や、海上保安庁による海上救急に出動することがあります。

【救急科専門研修プログラム(他科・他施設選択／ローテーション)】

日本救急医学会救急科専門医を取得することを目指し、救急専従期間を考慮した研修となるよう各人にあわせて調整可能なプログラムを作成しています。



連携施設一覧表(※2)

・社会医療法人仁愛会 浦添総合病院	・沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院	・沖縄県立宮古病院	・順天堂大学医学部附属浦安病院
・琉球大学病院	・社会医療法人敬愛会 中頭病院	・沖縄県立八重山病院	
・沖縄県立中部病院	・社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院	・高知医療センター	
・沖縄赤十字病院	・沖縄県立北部病院	・米盛病院	

沖縄県南部の高台に位置する当救命救急センターは、あらゆる年齢層の軽症症例から重症症例まで幅広く受け入れる日本最南端の3次医療施設です。Walkinから救急車搬送、ドクターヘリ、離島搬送など搬送形態も幅広く対応しています。あらゆる救急症例が経験できると思います。

新型コロナウィルス感染症の流行期も、他診療科・病院運営の協力もあり、新型コロナ症例の対応も行いながら、日々の救急診療を維持するべく邁進しております。沖縄はER型救急診療で有名ですが、当院では病棟・ICUでの診療までを経験することで、初期診療～入院診療～転院・転床までの診療を対応することで集中治療や他の診療科などのsub-specialityの検討も考慮した診療体制としています。

当院の特徴としてこども病院併設型の急性期病院であるため、小児科医師が多く小児受診者が他の3次医療機関より圧倒的に多い特徴があります。総合母子周産期医療センターとしての機能もあるため母体緊急搬送の受け入れもあり、あらゆる年齢層の受け入れが日々行われている珍しい救命救急センターです。ER診療では基本的に全勤務帯を通して、一部小児科・産科患者を除いてほぼすべての初期対応を行っています。

加えて、重症患者の初期診療は当科が中心となって行い、必要に応じて各診療科専門医師へ継続した診療への橋渡しを行っています。特に多発外傷、敗血性ショックなどの重症症例や中毒、心肺停止蘇生後などの特殊救急疾患の入院治療は当科が主治医となって担当し、集中治療を行います。必要時には各専門医と連携し治療にあたります。救急科専従中、専攻医はER、ICU、一般病棟、各々を一定期間集中的に研修します。一般病棟での業務も行っており、日々の治療方針策定から、回診、リハビリ指示、退院調整等までをチームの一員として最前線で行ってもらいます。勤務扱いでのBLS、ACLS、JPTEC、JATECなどの救急集中治療に必要な研修コースの受講も積極的に行ってています。当施設でのプログラムでは、3年間で日本救急医学会救急科専門医の取得を基本としており、救急専従期間を考慮した研修となるよう各人にあわせて関連する他施設研修などの調整も可能です。初期研修ではERを中心とした、種々の症例の経験を重視し、一定の経験を積んだ専攻医はさらにICU管理を通して全身管理の基礎・各他科専門診療科での決定的治療のプロセスの経験や、病院前救急医療(ドクターカー・ドクターヘリ)なども希望すれば専攻期間内に調整可能な範囲で経験することができます。数多いER症例から一症例を初期診療～入院診療(集中治療を含む)～退院・社会復帰までの診療経験を通して救急医としてmanagementを学ぶことができます。

是非!青い空・青い海の島で我々と救急診療をやってみませんか。

Message
プログラム責任者
土屋 洋之

救急科／カリキュラム(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修1年目							南部医療センター					
							救急診療+集中診療(12ヶ月)					
後期研修2年目			浦添総合病院					※1より選択				
			集中治療+ドクターカーOJT(6ヶ月)				地域救急診療(3ヶ月)		地域救急診療(3ヶ月)			
後期研修3年目				当院及び連携施設(※2)より選択								
			救急診療+集中診療(6ヶ月)				※3 救急診療(+リサーチ)(6ヶ月)					

※1 【社会医療法人敬愛会 中頭病院】【沖縄赤十字病院】【社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院】【沖縄県立北部病院】【沖縄協同病院】
【沖縄県立宮古病院】【沖縄県立八重山病院】

※2年目と3年目のプログラムは相談の上変更可能です。 ※3 リサーチ選択の場合は、琉球大学院を選択

外科

[Surgery]

それに合わせた外科研修を

光原 智海

Chikai Mitsuhashi

私は救急科専攻医を中断して外科ダブルボード取得のために当院外科プログラムにお世話になっています。

当院外科の特徴は「general surgeon」である指導医の先生のもと、腹部外科から胸部外科、悪性腫瘍から救急・外傷症例に至るまで、みなさんが「外科」として思い浮かべるすべての領域・疾患に対応できる、経験を積めることが特徴です。3次救急病院であるため、超重症症例の手術の経験も積むことができます。私自身、この上なく充実した研修を送ることができます。

心臓血管外科は県内随一の症例数を誇り、Mobil CVS(ドクターカー運用)やばいかじ大動脈センターといった取り組みを広げています。当院はこども病院でもあり、小児外科では大学病院で扱うような症例からcommon diseaseまで幅広く経験することができます。忙しい日々の中でもほっと一息、沖縄の日差しを浴び、海を眺めてリフレッシュすることができます。

当院のプログラムは専攻医のあらゆるニーズに対応できる素晴らしいプログラムです。我々と一緒に外科医の第一歩を踏み出しませんか?



プログラム概要

外科専門医は初期臨床研修修了後、3年間の専門研修で育成されます。

⇒ 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6ヶ月以上の研修を行います。

⇒ 本プログラムでは3年間の専門研修終了後に、大学院へ進むことも可能ですが(琉球大学等と連携)。しかし、原則的に3年間の専門研修期間中は、臨床医としての外科修練に集中することとなります。

沖縄県立病院外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

(1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力および外科領域の専門的診療能力を習得すること

(2) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること

(3) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること

(4) 外科領域全般からサブスペシャルティ領域(消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科)またはそれに準じた外科関連領域(乳腺や内分泌領域)の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

(5) 沖縄県の地理的、歴史的背景に基づき、離島および僻地医療を支える外科専門医をこれまでどおり継続的に育成すること

取得できるサブスペシャルティ

消化器
外科

心臓
血管
外科

呼吸器
外科

小児
外科



連携病院一覧表

- ・沖縄県立中部病院
- ・聖マリア病院
- ・聖マリアンナ医科大学病院
- ・沖縄県立北部病院*
- ・沖縄県立宮古病院*
- ・沖縄県立八重山病院*

*2 畦島中核病院

初期研修医の皆さま、はじめまして。外科プログラム責任者兼心臓血管外科部長の宗像宏です。外科後期研修にあたって当院を選択肢の一つに考えて頂き、大変うれしく思います。

当院は沖縄県立病院外科専門研修プログラム(県立病院5施設)の中で中心的役割を担う専門研修基幹施設であるばかりでなく、小児外科・心臓血管外科などサブスペシャリティ領域においても各々の学会認定施設です。

研修内容は、外科専門医としての医の倫理を体得するとともに、診断、手術適応判断、手術及び術前後の管理・処置、合併症対策など、一般外科医療に関する標準的かつ包括的な外科医療を習得し、外科医としてのプロフェッショナルの態度を身に着けて頂く事をまずは初期目標としています。

さらに南部医療圏(およそ70万人)の中核病院として、一般医療から救急医療(3次救命救急センター)まで幅広い症例経験が可能です。ジェネラル外科医を目指す先生方には、離島病院での診療経験などを含め、満足のいく研修ができるものと確信しております。またサブスペシャリティ領域への進路を考えている専攻医の先生方にとっては、各専科の症例数の多さはもとより、将来を見据えた教育(サブスペシャリティ専門医取得にむけた平行研修、学位・大学院進学、論文作成、海外留学の準備など)にも重点をおいており、これは当院の大きな特徴の一つと自負しています。

これから専攻医となる皆さま、沖縄の地で厳しくも楽しくやりかいのある三年間の充実した外科後期研修を、是非当院で受けてみませんか。各指導医は「当院でしか提供できない研修内容の充実」「沖縄から世界レベルの外科医の育成」をスローガンとして、日々試行錯誤しながら頑張っています。最後に私の師匠である前日本胸部外科学会会長の大北先生の言葉を引用しながら、結びいたします。

「何事も経験、人生一度きり、やり直しが効くのが若さの特権です。見る前に跳べです。」
是非向上心のある、探求心に燃えた、野心的な皆さんを当院外科スタッフ一同お待ちしています!

Message

プログラム責任者
宗像 宏

外科／カリキュラム(例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修1年目												
	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター(12ヶ月)または連携病院(6-12ヶ月) ※1											
	サブスペシャリティ領域など専門医研修を行うと同時に外科専門医研修											
後期研修2年目												
	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター(12ヶ月)または連携病院(6-12ヶ月)											
	サブスペシャリティ領域など専門医研修を行うと同時に外科専門医研修											
後期研修3年目												
	基本的に離島中核病院 ※2 への外科研修(研修時期に関しては流動的) ※3											
	外科専門医研修を主とする											

※1 3年間の研修期間中に基幹施設である沖縄県立南部医療センターに6か月以上ローテーションする事が必須。

※3 離島診療は1年間を必修とする。時期は診療体制などにより流動的だが、基本的には後期研修3年目。

●4年次以降の進路(到達度に応じる)

- ・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター及び中部病院でのサブスペシャリティ研修
- ・沖縄県離島中核病院での一般外科修練の継続
- ・関連する大学病院への国内留学、大学院への進学、他施設への研修、海外留学など



形成外科

[Plastic surgery]

形成外科のジェネラリストを目指した研修を!!

林 櫻

Sakura Hayashi

私が形成外科に興味を持ったのは学生の頃です。一言に形成外科と言っても診療で扱う疾患・分野は非常に多岐に渡りますが、当時はなんとなくわかったつもりでいました。そんな時、当院の形成外科で実習をさせて頂く機会があり、扱う疾患・病態の幅広さを初めて目の当たりにして驚きました。決められた答えのない手術であっても挑戦する先生方の姿勢に感銘を受け、私も「形成外科の様々な分野の診療を学びたい」という想いから、出身地を離れて沖縄県の当院で研修することに決めました。

当院は成人と子ども病院が併設された3次救急病院であり、小児から高齢者まで先天奇形など小児形成はもちろんのこと、成人の感染症や外傷など非常に様々な症例を診ることができます。また、連携施設での研修では当院では診ることのない症例も経験できます。上級医の先生方はとても温かく指導熱心で、手技や診療についてフィードバックを受けられる点も大きな魅力です。忙しい時期もありますが、自分らしく後期研修に専念し、成長できる環境が整っていると思います。

形成外科専攻を考えている方、幅広い分野の症例を経験したい方は是非当院で研修してみませんか？



プログラム概要

形成外科では初期研修終了後、4年間の専門研修が必要です。サブスペシャリティへの道も広く開かれていますが、地域完結型医療が求められる沖縄では、常にジェネラリストとスペシャリストとしての視点の両立が求められます。

形成外科の対象とする体の部位、患者さんの年齢は多岐にわたり、他科とのコラボレーションの機会も多くあることから、このマインドは研修のコアとなります。幅広いジェネラリストとしての研修は「熟達した形成外科」となるための「足腰」となり、将来のサブスペシャリティーへの基礎固めとしても重要です。

こども病院機能を併設した総合病院である当院は沖縄県の基幹病院であり、形成外科におけるほぼ全ての分野をまんべんなく経験できる機会があります。全研修期間を通じて General Plastic Surgeonを目指した「広く、深い」学びを提供します。県立病院群を基本とした連携施設もそれぞれの地域での中核病院であり、プログラムスケジュールのようなアレンジを行うことで、より一層充実した研修が可能となります。

関連施設一覧表

- ・沖縄県立宮古病院
- ・沖縄県立八重山病院
- ・沖縄県立北部病院

連携施設一覧表(※1)

- ・沖縄県立中部病院
- ・(医)こころ満足会形成外科KC
- ・鳥取大学医学部附属病院
- ・琉球大学病院
- ・九州大学病院
- ・名古屋大学医学部附属病院
- ・九州がんセンター

離島を抱えた遠隔地である沖縄県においては地域完結型医療が必要とされます。当科では限られた医療資源のなかであっても、一例一例を大切に、グローバルスタンダードを意識した医療の提供を目指しています。必然的に各個人の能力が最大限に発揮される必要があり、少数精鋭を意識することとなります。また当プログラムで学ぶ専攻医には学習者であると同時に、教育者としての視点も養うことを薦めています。学んだことや考えを伝える力を養うことは自身の学びを確実なものとし、生涯学習のコアとなることでしょう。形成外科は扱う部位、年齢層ともに多岐にわたりることもあり、指導医といえども時に困難な症例に対しては学習者となります。ともに切磋琢磨し合う環境に身を置いてみませんか。

Message

プログラム責任者
西関 修



形成外科／カリキュラム

●南部医療センター・こども医療センタースタート・重点コース

	プランⅠ	プランⅡ	プランⅢ	プランⅣ	プランⅤ
後期研修1年目	南部医療センター・こども医療センター				
後期研修2年目	南部医療センター・こども医療センター		中部病院・地域医療		
後期研修3年目	南部医療センター・こども医療センター	中部病院・地域医療	南部医療センター・こども医療センター	連携施設(※1)	南部医療センター・こども医療センター
後期研修4年目	中部病院	南部医療センター・こども医療センター			連携施設(※1)

●中部病院スタートコース(例)

	プランⅠ	プランⅡ	プランⅢ
後期研修1年目	中部病院		
後期研修2年目	中部病院		中部病院・地域医療
後期研修3年目	中部病院	南部医療センター・こども医療センター	連携施設(※1)
後期研修4年目	中部病院・地域医療 南部医療センター・こども医療センター	中部病院・地域医療 連携施設(※1)	連携施設(※1) 南部医療センター・こども医療センター

※1 形成外科KCでの美容外科、形成外科小手術症例の研修については、1~6ヶ月間の短期研修を研修1~4年次にいずれかの時期に組み込むことが可能です。

※2 連携施設における研修期間は、年単位ではなく短期研修の組み合わせも可能です。



専門研修 プログラム診療科

- 01. 内科
- 02. 外科
- 03. 救急科
- 04. 小児科
- 05. 総合診療科
- 06. 形成外科

認定医療機関

- 01. 日本医療機能評価機構認定病院 3rd G.Ver1.0
- 02. 総合周産期母子医療センター
- 03. 地域医療支援病院

指定医療機関

- 01. 保険医療機関
- 02. 更生医療指定医療機関
- 03. 労災指定病院
- 04. 生保・児童・身体障害者福祉等各法指定病院
- 05. 結核予防法指定病院
- 06. 原爆医療指定病院
- 07. 看護教育実習指定病院
- 08. エイズ医療拠点病院
- 09. 災害拠点病院
- 10. 第一種・第二種感染症指定医療機関
- 11. へき地医療拠点病院
- 12. 臨床研修指定病院
- 13. 被爆者一般疾病医療機関
- 14. 救命救急センター
- 15. 特定疾患治療研究事業委託医療機関
- 16. 難病指定医療機関
- 17. 指定小児慢性特定疾病医療機関
- 18. 小児救命救急センター
- 19. 九州・沖縄ブロック小児がん連携病院

学会認定施設

- 01. 日本国内科学会認定教育関連病院
- 02. 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 03. 日本消化器病学会専門医認定施設
- 04. 日本肝臓学会認定施設
- 05. 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- 06. 日本呼吸器学会認定施設
- 07. 日本内分泌学会認定教育施設
- 08. 日本小児科学会認定小児科専門医研修施設
- 09. 日本小児科学会認定小児科専門医研修支援施設
- 10. 日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設
- 11. 日本小児外科学会専門医認定施設
- 12. 日本小児神経学会専門医研修施設
- 13. 日本産科婦人科学会専攻医指導施設
- 14. 日本産婦人科学会専門研修連携施設
- 15. 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- 16. 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(新生児)暫定認定施設
- 17. 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児)暫定認定施設
- 18. 日本腎臓学会認定専門医研修施設
- 19. 日本神経学会専門医制度准教育施設
- 20. 日本精神神経学会精神科専門医研修施設
- 21. 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設
- 22. 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- 23. 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 24. 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 25. 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- 26. 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 27. 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- 28. 日本整形外科学会専門医制度認定研修施設
- 29. 日本形成外科学会認定施設
- 30. 日本透析医学会認定医制度教育関連施設
- 31. 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- 32. 日本臨床細胞学会認定教育研修施設
- 33. 日本臨床細胞学会認定施設
- 34. 日本臨床神経生理学会認定施設
- 35. 日本病理学会病理専門医研修登録施設
- 36. 認定輸血検査技師制度協議会認定指定施設
- 37. 日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設
- 38. 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設
- 39. 関連10学会構成 胸部ステントグラフト実施施設
- 40. 関連10学会構成 腹部ステントグラフト実施施設
- 41. 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- 42. 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
- 43. 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- 44. 日本高血圧学会専門医認定施設
- 45. 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- 46. 日本血液学会認定血液研修施設
- 47. 日本脈管学会認定研修関連施設
- 48. 日本歯科口腔外科学会認定医制度による研修施設
- 49. 日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設
- 50. 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
- 51. 植込型補助人工心臓治療関連学会協議会認定植込型補助人工心臓実施施設
- 52. 日本集中治療医学会専門研修施設 集中治療室(ICU)
- 53. 日本集中治療医学会専門研修施設 小児集中治療室(PICU)
- 54. 日本小児感染症学会認定専門医制度研修施設
- 55. 日本脳神経血管内治療学会研修施設
- 56. 日本感染症学会研修施設
- 57. 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
- 58. 日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医総合修練施設
- 59. 日本心血管インターベンション治療学会認定合同教育委員会認定経皮的動脈管閉鎖術施工施設
- 60. 日本心血管インターベンション治療学会認定合同教育委員会認定経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設
- 61. 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター
- 62. 日本心臓血管麻酔専門医認定施設
- 63. 地域包括医療ケア認定施設
- 64. 日本顎変形症学会研修施設
- 65. 下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設
- 66. 日本手外科学会基幹研修施設
- 67. 日本泌尿器科専門医教育施設

当院の概要

名 称／沖縄県立南部医療センター・
こども医療センター
所 在 地／〒901-1193 沖縄県南風原町字
新川118番地1
開設年月日／平成18年4月1日
病 院 長／福里 吉充
建 築 面 積／12,436m²
病 床 数／444床
(一般 433床・精神 5床・感染 6床)
職 員 数／1,351人(診療所を除く)
医師 210人／看護部 747人／その他 394人
附属診療所／(稼働数) 8 (8)

当院の診療科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、
外科、呼吸器外科、消化器外科、気管食道外科、心臓血管
外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神
科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、
眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理
診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科、腎臓内科、血液・
腫瘍内科、感染症内科、糖尿病・代謝内科、乳腺外科、小
児循環器内科、小児心臓血管外科、小児腎臓内科、小児
神経内科、小児血液・腫瘍内科、小児内分泌・代謝内科、
小児脳神経外科、小児整形外科、小児形成外科、小児精
神科、小児泌尿器科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、新生児
内科、小児放射線科、小児麻酔科、地域医療科

専攻医募集要項

- 選考方法：書類審査及び面接
- 提出書類：履歴書(指定様式有)、
医師免許証(写し)

見学の申込み先

**沖縄県立南部医療センター・
こども医療センター
卒後臨床研修センター**

メールアドレス
nanbu_pgmec@hosp.pref.okinawa.jp
(見学の2週間前までにメールにてお申込みください。)

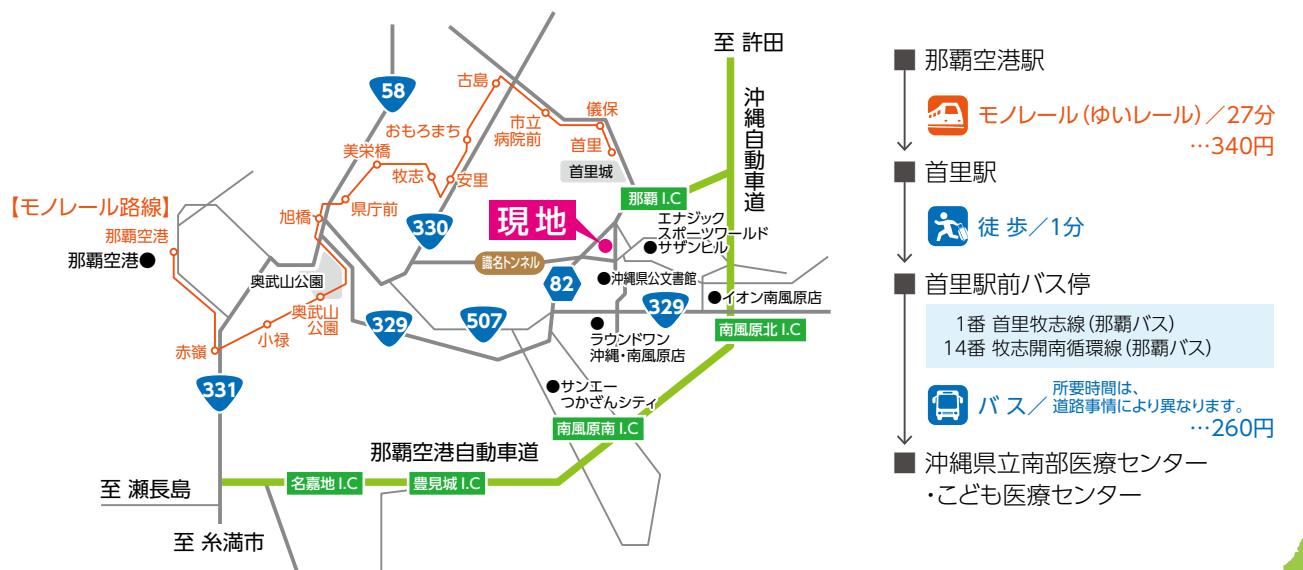
*見学は随時受け付けしております。
詳細はホームページをご参照ください。



- 身 分：会計年度任用職員
- 給 与：《会計年度任用専門研修医師》
(3年次) 406,000円 (4年次) 422,000円
※上記金額には、研修医業務手当(約72,000円)及び地域手当(約46,000円)を含みます。
《会計年度任用医師》(5年次) 711,000円 (6年次) 728,000円
※上記金額には、初任給調整手当(約344,000円)及び地域手当(約50,000円)を含みます。
※経歴等により、変動の可能性有り。
- 時間外勤務手当
【見込み額】当直1回につき 約31,000円～約113,000円
※勤務体制により異なる。
- その他の手当
・期末手当、勤勉手当(6ヶ月期、12ヶ月期)
・通勤手当(片道2km以上)
・休日勤務手当
・夜間勤務手当・宿日直手当・退職手当
※要件該当時のみ支給
- 休暇
有給休暇：年間10日(1年目)～14日(4年目)
夏季休暇：3日間
- 社会保険：地共済(短期)、厚生年金保険、
労働者災害補償保険、
雇用保険(退職手当の支給要件に該当するに至った場合に喪失)



アクセス



お問い合わせ

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター内

卒後臨床研修センター

TEL:098-888-0123 FAX:098-888-6400

〒901-1193 沖縄県南風原町字新川118-1

mail:nanbu_pgmc@hosp.pref.okinawa.jp



- 申込み先
メールアドレス
QRコード



- 研修医募集
ホームページの
QRコード

